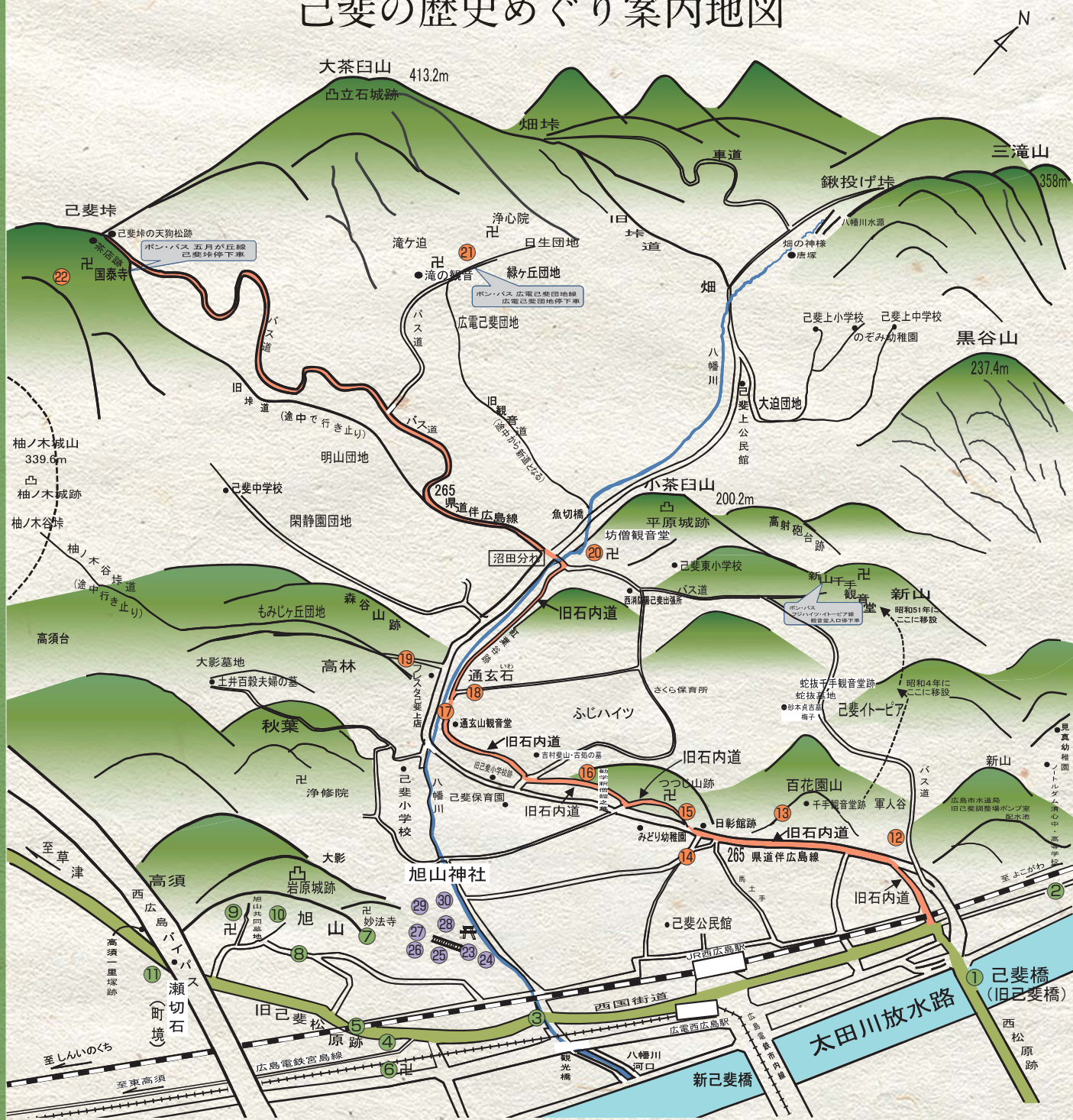


己斐の歴史めぐり案内地図



西国街道(旧山陽道)の歴史めぐり (己斐橋から瀬切石までの約1Km)

①旧己斐橋



己斐橋は城下から佐伯郡へ出る橋ということで出郡橋とか佐伯郡と沼田郡との境にあるので沼田橋と呼ばれたこともある。毛利氏の時代に架橋されたもので西国からの玄関口にあたり戦術上土橋であった。木橋になったのは明治10年代、コンクリート橋になったのは1926年(大正15年)3月28日で、長さ80mだった。

②キリシタン殉教之碑



徳川幕府がキリシタン弾圧を始めたのは1628年(寛永5年)長崎においてである。広島藩でも迫害と弾圧が行われた。1634年(寛永11年)己斐の河原でキリシタン5人が火刑に処せられた。1984年(昭和59年)他地でも多くの殉教者があったことを伝えるため殉教者があったとされるこの地に代表して殉教の碑が建立された。

③源左衛門橋



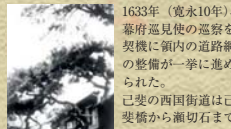
江戸時代の初めの頃、ある大名が通りかかると八幡川が出水して川を渡れず困っていた。近所の柴竹源左衛門が板を持って来て渡してやった。それでこの名が付いた。尚、柴竹源左衛門は第3代広島城主浅野長晟公の幼女達で招かれて己斐「柴竹庄」をもらい住んでいた。

④別れの茶屋



己斐の源左衛門橋を渡っておよそ200メートル西進したところに茶店があった。現在はパン屋である。柴竹家の家伝書によると浅野長晟公が幼女達の柴竹源左衛門と茶を飲み、世間話をして別れたからと伝えられている。浅野長晟公は1619年から1632年の間、第3代広島城主であった。

⑤己斐松原跡



1633年(寛永10年)、幕府巡見使の巡察を契機に領内の道路網の整備が一挙に進められた。己斐の西国街道は己斐橋から瀬切石までおよそ1キロメートル、街道松が3間年に植えられたので計算上は約400本になる。己斐松原はその変形が素晴らしく、広島の大三松原に数えられていた。昭和45年、松原はなくなった。写真はありし日のしぐれ松。

⑥善法寺



瑞雲山善法寺、浄土真宗本願寺派 1556年(弘治2年)第1世忠善和尚が阿戸村に臨濟宗仏通寺派蓮光庵を創立。1628年(寛永5年)広島寺町に寺院を移し、寺号を「善法寺」と改めた。1705年(宝永2年)浄土真宗に改宗、1928年(昭和3年)第16世至道は仏閣を己斐に建て、寺町から移転、1936年(昭和11年)本堂建設、現在に至る。

⑦絶佳園跡



神功皇后が三韓征伐の途上「野立ち」せられた所と言われている。浅野時代はミカンの栽培が行われていた。1907年(明治40年)頃、舟入町の大村文太朗氏が桜、かいどうを植えて絶佳園と名付けた。山上からの眺望は内海の景と花木の美とが相応じて絶佳であった。現在では石段が残るのみである。

⑧御船着



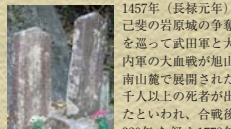
200年頃、仲哀天皇のとき神功皇后が三韓征伐の途上、その船団を率いて己斐の「御船着」に到着され松山(後の旭山)に登られ御立ちされた。この御船着は現在も残り残っており、旭山の南側の山沿いの小道で高須との境界瀬切石より100メートル手前辺りに起伏して昔海岸線だった様子を呈している。

⑨西福院と淡島大明神



長栄山清照寺西福院 御本尊は十一面観音菩薩、並びに淡島大明神、1593年(文禄2年)隆聖上人が中島本町に建立する。1619年(元和5年)浅野長晟公が広島へ入封の折、淡島大明神を当山へ祭祀される。原爆によって焼滅 1957年(昭和32年)己斐の旭山南西山腹に再建する。国の指定重要文化財「紺紙金泥宝篋印陀羅尼經(965年作)」がある。

⑩千人墓



1457年(長祿元年)己斐の岩原城の争奪を巡って武田軍と大内軍の大血戦が旭山南山麓で展開された。千人以上の死者が出たといわれ、合戦後320年を経た1778年(安永7年)己斐村の人たちが墓を建てて供養した。2基あるのは敵味方のためと言われる。この墓はいつしか行方不明となっていたが1926年(大正15年)に竹藪の中で偶然発見された。同年8月に旭山共同墓地に移された。